

## 雨の強さと降り方を参考に適切な避難を！

市は、大雨時に河川の氾濫や土砂災害発生恐れがある市内該当地域に対して、避難情報を発令します。しかし、雨の強さによっては、避難がかえって危険な場合もあります。今回の防災メモでは、雨の強さが人に与える影響や避難の方法などを紹介します。

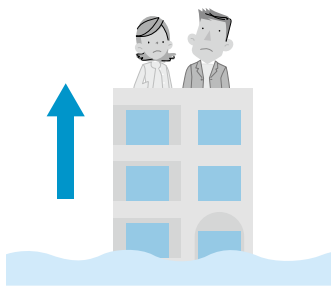
### ①雨の強さと降り方、災害の危険性を考えて行動しましょう

1時間雨量(mm)と予報用語	人の受ける感覚	人への影響	災害の危険性と取るべき行動
10以上20未満 やや強い雨	ザーザーと降る	○地面からの跳ね返りで足元が濡れる ○地面一面に水たまりができる	降雨量が少なくても、長時間続く時は土砂災害が起こることがありますので、 <b>注意が必要です。</b>
20以上30未満 強い雨	どしゃ降り	○傘を差していても濡れる ○車の場合、ワイパーを速くしても見づらい	道路冠水や小規模の崖崩れの恐れがあります。 <b>側溝や水路、川、崖や沢から離れましょう。</b>
30以上50未満 激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	○道路が滝のようになる ○高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じ、ブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	山崩れ、崖崩れが起きやすくなり、 <b>危険地帯では避難の準備が必要です。車の運転は控えましょう。</b>
50以上80未満 非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	○傘は全く役に立たなくなる ○水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	大規模な災害が発生する恐れが強く、 <b>厳重な警戒が必要です。車の運転はやめましょう。</b>
80以上 猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる		

### ②避難所などへの避難が危険となった場合は、身の安全を確保しましょう

移動が危険な緊急時は

**垂直避難**



斜面の反対側の上階へ

**屋内退避**



河川の氾濫は、上流部での降雨により発生することもあります。そのため、市内で雨が降っていない場合でも、避難情報などが出る可能性があります。

### ③天気予報や公共機関の情報を確認し、早めに避難しましょう

「すぐメールかに」やFMららを聴くことができるアプリ「FM++」に登録して、気象や災害時緊急情報を入手しましょう。

日頃から、複数の情報収集手段を用意しておくとう安心ですね(18ページ参照)。



▼QRコードから登録できます

「すぐメールかに」



情報を文字でも配信。FM++をダウンロードして「FMらら」を選択



「FMらら」は、今年7月で開局10周年！  
“災害に強く76.8MHz” 聴いてくださいね♪